

称号及び氏名 博士(看護学) 金山 悠

学位授与の日付 令和7年3月31日

論文名 実地指導者の視点取得に関する研究
—尺度開発と視点取得が及ぼす影響の探索—
Perspective-Taking in Preceptors: Scale Development and
Exploring the Impact of Perspective-Taking

論文審査委員 主査 細田 泰子
副査 中山 美由紀
副査 北村 愛子

論文内容の要旨

[目的] 実地指導者（新人看護師に対して継続的に臨床実践に関する実地指導、評価等を行う看護師）の視点取得自己評価尺度を開発し、視点取得が及ぼす影響を探索することである。

[概念枠組み] 文献的考察に基づき、実地指導者の視点取得がアサーティブネスと社会的スキルに影響を及ぼすという概念枠組みを構築した。

[予備研究 1] 実地指導者の視点取得に関する質的研究

方法: 実地指導者研修を受講しており、実地指導者の役割を現在、または1年以内に担っている看護師8名を対象として、実地指導者の視点取得について半構成的面接法による調査を実施し、質的記述的に分析した。

結果: 実地指導者の視点取得の様相として、72のコード、51のサブカテゴリー、3つのカテゴリー《反応的視点取得》《行動的視点取得》《状況的視点取得》が抽出された。

[予備研究 2] 実地指導者の視点取得自己評価尺度の表面妥当性と内容妥当性の検討

方法: 臨床経験5年以上で、臨床における実地指導者の経験を有し、修士以上の学位を持つ5名を対象としてグループインタビューを行った。予備研究1において作成した3つの下位

概念と 51 項目からなる尺度について、尺度の構成概念が適切に表現できているか、尺度項目は視点取得を測定できているのかを中心に、インタビューガイドラインを用いて、各概念と尺度項目の整合性、順序性、表現の明確性、回答のしやすさについて検討した。

結果：専門家による検討を踏まえ、下位概念 1 つの修正と 51 項目のうち、2 項目の統合、11 項目を追加、46 項目の表現を修正し、【状況的視点取得】【行動的視点取得】【情緒的視点取得】からなる 3 つの下位概念と 60 の尺度項目となった。

【本研究 1】 実地指導者の視点取得自己評価尺度の内容妥当性指数の検討

方法：臨床経験 5 年以上で実地指導者の経験を有し、修士以上の学位をもつ看護師・看護学研究者の 10 名を対象に、視点取得自己評価尺度との関連を測定する質問紙調査を実施した。

結果：Item-content validity index が 0.78 未満の 16 項目を削除し、44 項目が採択された。採択された 44 項目の Scale-level content validity index は 0.9 であった。

【本研究 2】 実地指導者の視点取得自己評価尺度の信頼性および妥当性の検討

方法：全国の一般病床数 200 床以上の医療施設に勤務する臨床経験 3 年以上で、実地指導者研修を受講し、現在指導者の役割を担っている看護師 928 名を対象に、実地指導者の視点取得自己評価尺度（案）、成人用メタ認知尺度、日本語版対人反応指標、個人背景からなる質問紙調査を実施した。項目分析後に信頼性は内的一貫性、安定性（再テスト法）、妥当性は構成概念妥当性（探索的因子分析・確認的因子分析）、基準関連妥当性（外的基準との相関）を確認した。

結果：308 名（回収率 33.2%）から回答が得られ、280 名（有効回答率 30.2%）を分析対象とした。項目分析、探索的因子分析により、【知覚的視点取得】【状況的視点取得】【意図的視点取得】の 3 因子 22 項目が抽出された。Cronbach's α 信頼性係数は 0.720~0.914、適応度指標は GFI=0.851、AGFI=0.814、CFI=0.872、RMSEA=0.078 であった。成人用メタ認知尺度との相関係数は 0.262 を示し、有意であった。再テスト法による級内相関係数は各因子で 0.616~0.664 を示し、尺度全体では 0.687 (95%CI: 0.548~0.789) であった。

【本研究 3】 実地指導者の視点取得が及ぼす影響の探索

方法：本研究 2 と重複しない一般病床数 200 床以上の医療施設で勤務する臨床経験 3 年以上で、実地指導者研修を受講し、現在指導者の役割を担っている看護師 864 名を対象に、

実地指導者の視点取得自己評価尺度、看護師アサーティブネス評価尺度、看護における社会的スキル尺度、個人背景からなる質問紙調査を実施した。概念枠組みに基づき、多重指標モデルを用いて共分散構造分析を行った。

結果:対象者のうち 324 名 (回収率 37.5%) から回答が得られ、296 名 (有効回答率 34.3%) を分析対象とした。共分散構造分析を行った結果、[視点取得] から [アサーティブネス] へのパス係数が有意ではなかった。そのため、[視点取得] と [社会的スキル] で多重指標モデルを作成し、分析を行った。その結果、[視点取得] から [社会的スキル] へのパス係数は 0.38 であり、適応度指標は、GFI=0.945、AGFI=0.902、CFI=0.939、RMSEA=0.088 であった。

[倫理的配慮] 全ての研究は大阪府立大学大学院看護学研究科研究倫理委員会の承認を受けた。

[考察] 実地指導者の視点取得自己評価尺度は信頼性と妥当性が確保された尺度である。本尺度を使用することにより、実地指導者が新人看護師に関わる際の自身の態度を客観的に評価することができる。また、実地指導者の視点取得は社会的スキルに影響を及ぼすことが確認された。実地指導者が新人看護師などの他者と円滑に関係を築くためには、視点取得への支援が有効であると考えられる。今後は実地指導者の視点取得を高める関連要因や教育介入の方法について検討していく必要がある。

キーワード : 実地指導者、視点取得、尺度開発

Key words : preceptor, perspective-taking, scale development

学位論文審査結果の要旨

本研究は、実地指導者の視点取得自己評価尺度を開発し、視点取得が及ぼす影響を探索することを目的としている。これまでに開発された視点取得尺度は、大学生や青年期を対象としたもので、実地指導者の視点取得を評価できる指標は見当たらなかった。実地指導者は、新人看護師の置かれている状況を把握し、一緒に問題を解決する能力や適切な関係を築くコミュニケーション能力が求められているものの、視点取得に焦点をあてた研究は限定的であり、実地指導者の視点取得を捉えるには至っていないことから、独創性・新規性を有する研究である。本研究の成果は、実地指導者の視点取得自己評価尺度を用いて新人看護師に関わる際の視点取得を客観的に把握することで、教育支援に寄与できることに加え、視点取得が及ぼす影響を明らかにすることは、実地指導者の能力開発につながることで期待され、学術的重要性・妥当性が認められる。

実地指導者の視点取得自己評価尺度の開発では、グループインタビューの質的分析をもとに尺度項目を作成し、COSMINの方法論に基づき、尺度の信頼性・妥当性を検討する適切な方法を用いていた。この尺度は【知覚的視点取得】【状況的視点取得】【意図的視点取得】の3因子22項目から構成され、信頼性と妥当性を有することが確認された。さらに、文献的考察に基づき構築した仮説の検証では、共分散構造分析を行い、実地指導者の視点取得は社会的スキルに影響を及ぼすことが示され、適合度は基準を満たしていた。これらのことから、科学的根拠に基づく妥当な研究方法が用いられていることが確認された。本研究の遂行において、研究対象者への十分な説明を行い、自由意思の尊重に留意し、プライバシーの保護に重点を置いた適切な倫理的配慮のもとで実施されたことを確認した。本研究は、実地指導者の視点取得に関する研究に新たな知見を提供し、社会的スキルを獲得することの重要性が確認された。実地指導者が自分本位な指導に偏ることなく、新人看護師と良好な関係性を築きながら指導することに寄与するものであると考える。

以上のことから、本研究は博士論文としての学術的価値を有しており、博士（看護学）の学位の授与に値するものと判断した。